

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について

事業内容

高知南：グローバル教育プログラム（探究型学習・英語教育）について

概要・目的

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、平成30年度をイメージして協議する。

P 平成 29 年度の当初計画

4つの方向性と7つの方策

探究型学習プログラム+英語教育プログラム 協働による目標達成

方向性①

授業者は指導と評価の一体化を目指す

1. 生徒との目標の共有、目標達成につながる学習活動の設定と評価を通して、学習指導の改善を行う。

- ・生徒の学びのプロセスの見取り
- ・目標に沿った評価方法の研究
- ・英語教育での学習到達目標（CAN-DO リスト）の活用
- ・グローバル教育校内研修会における教科横断型の研究協議

※グローバル教育校内研修会

- ・・・高知南中高が取り組んでいる「グローバル教育」の目標を実現するために、「英語教育プログラム」及び「探究型学習プログラム」に基づいた研究授業を実施し、全教職員でこれまでの取組の成果と課題を確認するとともに、より効果的な指導や充実した取組を協議する研修会。

方向性②

生徒は自己の学びを適切に振り返る

2. 主体的な学びにつながるよう、生徒の振り返りの手立てを工夫する。

方向性③

学校は教科会やチーム会を活性化させる

3. 高知南が目指す「グローバル人材」を再確認し、育てたい資質・能力を教科横断的に育成する授業づくりについて、学校全体で取り組む。
4. 組織的・協働的な授業づくりを目指し、教科会、チーム会を活性化させる。

※チーム会・・・全教科の科長と若年教員研修該当者、及びその指導教員から成る研究推進組織。

方向性④

学校と教育センターは研究成果を普及させる

5. 3年間の研究成果を集約し、研究の過程や実践事例をまとめる。
6. 教員の授業づくりに対する意識の変化や生徒の学びに関する変容を見取るために、意識調査等を実施し、分析する。
7. 県内の教員のニーズに応えられるよう、教材研究や授業づくり、評価のポイント等の資料を作成する。

D 平成 29 年度の実行状況

取組①

- ・年度当初に、全教職員が明確な目標設定、学びのプロセス、評価を意識した授業改善の計画を作成することで、授業改善の見通しをもつことができている。
- ・今年度は、生徒の学びのプロセスを見取ることを評価の共通目標とし、全教職員が公開授業の実施を予定している。
- ・6月までに参観した授業では、目標が提示されていなかったり、目標と活動が繋がっていなかったりする授業も見られたため、グローバル教育校内研修会に向けて、育てたい資質・能力を明確にし、身に付いたかどうかを評価する授業を提案するよう、授業者と協議をしている。
※参考：常駐指導主事が参観した授業：39回（国1、社7、数8、理4、英19）
- ・**探** 年間指導計画に協調学習（知識構成型ジグソー法）やアクティブ・ラーニング型授業を位置付け、学習指導の工夫改善をするように意識を高めている。
- ・**英** 授業では、ゴールの姿を明確にし、バックワードデザインを意識した指導ができるようになってきている。
- ・**英** CAN-DO リストを達成できるよう、年間指導計画を見直し、単元計画に反映させた。また、中学校では、学期ごとの筆記テストやパフォーマンステストでどこまで力がついているかを、他学年の担当教員も把握できるように、具体的な評価基準を設定した計画を作成している。

取組②

- ・**探** 「どのようなことができるようになるか」というゴールイメージを生徒にもたせ、ゴールへの到達度を、生徒自身が適切に振り返ることを工夫するようにしている。
- ・**英** 生徒の自己評価、相互評価等を取り入れ、生徒自身が英語運用能力を把握できるようにしている。また、授業者が生徒の学びの状況を確認し、肯定的評価をしたり、生徒自身が課題に気付くような働きかけをしたりしている。

取組③

- ・授業で設定した目標を基に、授業の振り返りを行うことを教科会に位置付けるようにしている。（教科会は週1回設定。おちに研究授業後の教科会で授業の振り返りを行う。）
- ・**探** チーム会の年間日程を作成し、年間の見通しをもって、生徒の学びが深まっているか、育てたい資質・能力が身につけているかを分析するようにしている。
- ・**英** 教科会で、2年間の成果と課題を確認し、目指す生徒像の実現と英語運用能力の向上に取り組むことを共有した上で、生徒の様子や指導方法を話し合い、授業改善につなげている。

取組④

- ・多くの教員が活用できる資料となるように、意識調査を実施し、結果を分析して研究成果として普及する内容を検討している。
- ・**探** 探究型学習の授業づくりへの意識調査（教員対象）を年2回（7月・11月）実施することとし、調査用紙を作成した。
- ・**英** 英語学習への意識・実態把握調査（生徒対象）を年2回（5～6月、11～12月）、また英語教育プログラム意識調査（教員対象）を年1回（11月）に実施することとした。生徒調査第1回は、集計中である。

C/A 課題（●）と今後の取組の方向性（→）

取組①

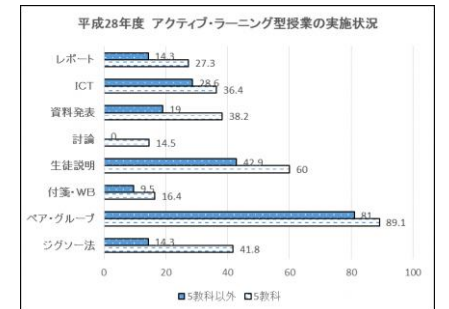
- 授業の目標に設定した育てたい資質・能力が漠然としており、生徒の目標達成状況を適切に見取ることができていない場合がある。
- 第1回グローバル教育校内研修会（7/14）において、「何ができるようになるか」を意識した授業を公開し、全教職員で研究協議を行う。
- 第2回グローバル教育校内研修会（8/2）において、「教科で付けた力によって、生徒はどのようなことができるようになるか」について、全教職員で協議を行う。
- 授業のゴールを明確にし、そのゴールが達成できたかどうかを見取ることができるルーブリックに基づいて評価していく。

取組②

- 生徒の学習意欲がより高まる振り返りの視点やより効果的な振り返りの活用について、分析する必要がある。
- どの授業でも、単元の中での1時間の目標の位置づけを生徒に具体的に示し、それに対して、生徒自身が何ができるようになったのかを振り返ることができるようにする。
- 生徒が、授業で何が身に付いたのかをどのように振り返ることが効果的であるかの視点で、教科会で協議をする。

取組③

- 授業改善につながる取組状況には、教科間・教員間で差が見られる。
- チーム会を核に、全教科で授業改善に取り組む。
- グローバル人材としての資質・能力と、それを授業の中でどのように育成していくかを教科会で話し合い、実践する。



取組④

- 取組の検証が不十分である。
- 意識調査などの3年間のデータを分析し、研究の成果と課題を検証する。
- 事例分析をしたり、要点を集約したりして明らかになった授業づくりや評価のポイント等を「高知県授業づくり Basic ガイドブック」の改訂に活用する。
- 探** 全教科の事例を収集し、授業づくりのポイントをまとめる。
- 英** 意識調査の結果を夏季休業中に学年別に分析し、6年間を見通した授業のPDCAにつながるよう、教科会で報告、協議する。